

座間味島で行われているサバニ帆漕レースに関する研究 -スポーツツーリズム・スポーツイベント研究の視点からの分析-

1614040 安本 源 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

I. 研究の目的

サバニ帆漕レースは、2000年の九州・沖縄サミットを記念して開催され、毎年6月末から7月初めに、座間味島の古座間味ビーチから那覇港までの25海里(約36km)を渡るレースである。サバニ帆漕レースに関連する先行研究は行われておらず、研究フィールドの座間味島に関する先行研究は、スキューバ・ダイビングに関連するものが大半である。そのような状況の中で、宮内ら(2017)は、座間味村のマリンレジャー産業はスキューバ・ダイビング一辺倒から多様化し、国立公園の指定など、社会的条件に恵まれ、観光客は増加傾向にあると述べている。近年では、スポーツツーリズムが注目され、全国各地でマラソンなどのスポーツイベントが開催されており、スポーツイベントのもたらす多様な影響に関する研究が行われている。本研究では、マリンスポーツイベントの一事例として「サバニ帆漕レース」や、それをきっかけとして生じたサバニに乗る行動やサバニに取り組む活動が人々に与えた影響について、スポーツツーリズム・スポーツイベント研究の視点から追究することを目的とした。

II. 研究の方法

2019年の第20回大会までに開催されたサバニ帆漕レースの出場経験者を対象に、回答者の属性、大会に対する考え、満足度、次回以降の参加意欲、練習について、大会の今後について等を質問項目としたWebアンケート調査を実施した。

III. 結果と考察

得られた59名の回答を集計した結果、大会の満足度に関する調査項目では「非常に満足」および「比較的満足」と回答した割合が「情報発信(38%)」と「申し込み方法(37%)」を除く12の項目で50%を超え、高い値を示した。スポーツイベントにおいて、再参加意欲は参加者の定着につながる重要な要素であると述べられているが、「ホノルルマラソン」のような大規模なスポーツイベントと同様にサバニ帆漕レースにおいても高水準(88%)の再参加意欲が認められた。以上から、サバニ帆漕レースは、今後の継続、拡大に期待ができると考えられる。

IV. おわりに

サバニ帆漕レースは他地域にはない独自の差別化された伝統文化を用いたスポーツイベントということで注目を集め、調査結果においては「サバニ」という伝統文化を次世代に伝える役割に関しても肯定的な回答が9割を超えたことから、「活用」という手段を用いた伝統文化の継承の一助となっていることが考えられた。

主な参考文献

宮内久光・宮崎大 (2017). 「沖縄県座間味島におけるマリンレジャー事業所の経営形態の変容」 『沖縄地理』, (17), 77-91.